お知らせ

平成２４年　６月２５日
東北地方整備局

東日本大震災で初期に活動したリエゾンが再び集まります

東日本大震災から１年３ヶ月が過ぎました。震災で犠牲になられた方々とそのご家族に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災の発災以降、全国の国土交通省地方整備局から被災自治体へリエゾン※を派遣し、被災自治体の要望を伺い、国土交通省の果たす役割以外にも救援物資の調達・配送、課題解決のための関係機関との調整等様々な活動を行いました。

この深い関わりを持った「被災自治体」と「派遣されたリエゾン」が再び被災地に集結し、意見交換等を実施します。

※リエゾンとは：Liaison、「つなぐ」という意味のフランス語。災害などの際に現地の要望や状況を把握して、的確な支援を行うための、自治体と国との橋渡し役のことです。

日　時：平成 24 年 7月 2日（月）15時～
場　所：山田町中央コミュニティーセンター　２Ｆ　会議室

（お知らせ先：岩手県政記者クラブ（宮古記者クラブ、釜石記者クラブ）
宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会）

問い合わせ先

岩　手　県　山　田　町
岩手県下閉伊郡山田町八幡町 3-20　TEL:0193-82-3111 (代)
総　務　課　長　　甲斐谷　義昭

岩　手　県　大　槌　町
岩手県上閉伊郡大槌町上町 1-3　TEL:0193-42-2111 (代)
総　務　部　長　　平野　公三

国土交通省　東北地方整備局
仙台市青葉区二日町 9-15　TEL:022-225-2171（代）
企画部　企画調整官　　池口　正晃（内線 3112）

参考資料－１

①１周年を機に開催

・岩手県山田町のリエゾンが平成23年6月3日に活動が終了し、１年を迎えた

・平成23年7月10日に気仙大橋の開通により、三陸地方の動脈である国道45号が全面復旧してから、１年を迎える

②リエゾン活動が果たした役割

・全国の地方整備局から延べ約４，０００人が活動（3/11以降、85日間活動）

※東北管内2,533人、北陸259人、中部204人、近畿336人、中国248人、四国201人、九州176人

（人数は延べ数）

・各市町村長の右腕として活動（何でも屋として活動）

・仮庁舎（プレハブ）の調達

・被害の調査

・食料、生活物資や棺の調達

・燃料タンク撤去の調整

③山田町と大槌町との関わり

・山田町は、３月２２日より７４日間 延べ約１５０人が活動

・大槌町は、３月１４日より７８日間 延べ約１９０人が活動

・被災が大きかった両自治体とは、町長(自治体)と戦友的な付き合い

④復興がいよいよ始まる１周年を機に、自治体と意見交換

・復興のアドバイス

・リエゾンの役割の再確認

参考資料-2



写真-1　タンク解体状況（山田町）



写真-２　仮庁舎全体設置状況（大槌町）